



卒業式

〈教務部から〉

2月16日に卒業証書が授与され、第44期生の183名が巣立って行きました。卒業生を代表して徳原佳織さんが次のように答辞を述べました。

「在校生の皆さんの視線を感じることで、自分を律し、成長させることができたのだと思います。互いにささえ合い、励まし合って、この近高をさらに盛りたてて行ってください。」と述べ、皆さんが新しい担い手となってくれるよう期待しています。また、「誇りを胸に未知の世界を切り拓いていきたい。困難も悲しみも経験するでしょうが、私たちは決して諦めたり、挫けたりせずに、自分たちの夢を追い続けていきます。それだけの強さをこの3年間で培うことができたから。」と決意を述べました。皆さんも素晴らしい先輩たちに続く努力をしましょう。

また、4月5日には新入生が入学してきます。皆さんは、先輩としての自覚を充分に持って、新学年を始められるよう準備しましょう。

3月は、学校生活の1年を締めくくる重要な月です。毎日の授業、行事、テスト、模試や提出物など、この一年どうだったかを振り返ってみましょう。それぞれが単体としてあるのではなく、1年から3年まで連続したものであるのです。希望を高く持って、日々研鑽していきましょう。

4月上旬の学校行事予定

3日(土)	離任式・始業式・新任式
5日(月)	入学式
6日(火)～10(日)	特別授業
6日(火)～7日(水)	(中)新入生自由登校
7日(水)～10日(土)	(高)新入生宿泊研修
10日(水)	中6・文理Ⅱ3年 進路講演会・学級懇談会
12日(月)～	普通授業

〈生徒指導部から〉

平成21年度締めくくりの月です。この1年間を振り返り、がんばれたことは継続し反省すべきことは改善しましょう。また、進級するにあたって、中6・高3生となる皆さんは最高学年として学校のリーダーとなり、中5・高2生となる皆さんは学校行事などに対して中心的な役割を担うことをしっかりと自覚しましょう。

2月の卒業式では在校生が卒業生達に対し、心から感謝の意を伝えようと、学園歌などを堂々と大きな声で歌う姿は本当に素晴らしいものでした。4月には希望に胸を膨らませた新入生が入学してきます。入学式でも同じようにあの大きな歌声で新入生を迎えてほしいと思います。

【校訓】

「人に愛される人」・「人に信頼される人」・「人に尊敬される人」になろう

この1年間、近畿大学附属豊岡高等学校の生徒としての自覚と誇りをもった学校生活を送ることができ、身だしなみも整うようになりました。「当たり前前」のことが、「当たり前」ことをより一層大切にしてください。基本的な生活習慣を身に付け、学校のルールを守ることが、これから社会人となるために重要であることは、各自がよく自覚できていることと思います。

「人生に自動ドアはない」

校長 原 範一

最近はその店に行ってもほとんどが自動ドアになっています。たまにそうでない店があってほんやり立ったままでいて、気がついて急いでドアに手をかけるということがあります。自動ドアとは全くうまいことをいったものです。現在の社会をびったり言い当てていますね。努力しなくても自分の都合のいいようになり、便利なことが世の中にずいぶんとあふれてきているのは事実です。

小学校の頃までは、困ったときなど、結構周囲の手助けがあったりして、何とか解決したことが多かったことと思います。しかし、中学・高校では、そう簡単にいかななくて、自ら全力でこじ開けなければならぬことがずいぶんと増えてきたのではないのでしょうか。そうです、これから先は、そう簡単にドアは開いてくれません。手をかけ、少しばかりの力で押しでもびくともしないドアのほうが多くなるのです。

今年度も、最後の月となりました。この一年を省みると、そう簡単にいかなかったことが多くあったのではないのでしょうか。しかし、どうかひるむことなく、次年度に向けてまた決意を新たにしてください。

期待を込めて、次の言葉(梅原 猛「学問のすすめ」)を送りたいと思います。

「人生はただ向こうから与えられるものではない。自ら創ってゆくものである。自ら創ってゆくにはやはり三つの段階が必要なのだ。ラクダの人生とライオンの人生と小児の人生。いいかえれば忍耐の人生、勇気の人生、そして創造の人生である。」

梅原 猛「学問のすすめ」

## 受験はスタートの合図のないマラソンだ！！

大学受験をする者にとって、決まっていることがあります。それは、ゴールです。受験はゴールが必ずあります。でも、スタートの合図はありません。別に、いつスタートしたってかまわないのが大学受験です。高校1年生でスタートしようが、高校3年生の夏に始めようがよいのです。しかし、よく考えてみてください。少しでも早くゴールに近づきたければ、早くスタートを切ったほうが有利に決まっています。とくにそのゴールがとてつもなく高い目標のゴールであれば、それだけスタートを早くしなければ間に合いません。

中6・高3の受験生は、センター試験が終了してから、2月25日の国公立二次試験まで、ほとんど休み無く学校に来て二次演習を受けていました。ある生徒は、一日も休まずに学校に来続けました。当然日曜日もあります。最後のスパートはこんなものです。それが当たり前です。でも、それは、それまでの地道な積み重ねがあって本当の力となるのです。最後の演習だけ受けてゴールに届くわけではありません。最後の直線で爆発できるのは、早くスタートして毎日毎日を大切に、一歩一歩を着実に歩み続けた者だけなのです。

中5・高2の皆さんは、とくにスタートを切っていると思います。特に進学コースの皆さんは、5月に実施される進研マーク模試で結果を出さないと、近畿大学の特別推薦の権利がなくなってしまいますよ。あなたたちの受験日は、5月なのです。あと80日あまりです。今、一番勉強しないといけないのは、進学コースの2年生です。がんばればチャンスが広がります。悔いのない3月を過ごしてください。

学年末考査も終わり、今年度も残り1ヶ月となりました。しかし3年生の中には先月卒業式が終わったにもかかわらず、まだこれから入試に向かう先輩方もいます。最後の最後まで、高校時代にしかできない勉強をして、より上を目指そうとするその姿勢は下級生の皆さんにもよく見ておいてほしいところです。大学生活のスタートで少しでも出遅れないようにするための勉強はもはや受験勉強を超え、その先の人生を見据えた、自分を磨くためのものです。

そういう気持ちで勉強してきた人は、結果が出た時に必ず涙します。すでに今年もたくさん感動的な涙を見ました。それは今までやったことが報われた時に流す涙、つまり、自分のこれまでの選択がすべて正しかったことを証明する涙であり、自分の成長を感じる涙、そして自信がついた証の涙です。この強い自己肯定感こそがその生徒の今後の人生に絶対必要なものなのです。皆さんはそれを感じるためにこの学校に来たのです。

さて、在校生の皆さんにとってみれば、年が明けて「気がついたらもう終わりか」というところではないでしょうか。年度当初の気持ちを思い出してみてください。1年前の今頃は、何を考えていましたか？今年できなかったことから決して目をそらさず、どうせなら卒業する時に最高の涙が出るような1年を過ごすために次年度の準備をしましょう。

### 自然科学部 【FLL 2009 Japan Open チャンピオン賞 第5位 入賞】

2月14日(日)、東京にある日本科学未来館において「FLL 2009 Japan Open」が開催されました。各ブロック大会を勝ちあがってきた代表42チームによって競われ、本校の自然科学部が見事5位に入賞しました。

その結果、5月に開催予定のOpen International Championship 世界大会に日本代表として出場する権利を得ることができました。



	曜	高等学校	共 通	中高一貫中等部
1	月		テスト返し①	
2	火		テスト返し②	
3	水			中2研修旅行(6日まで)
4	木			
5	金	教育講演会(中4・5・高1・2 6・7校時 和花季ホール)		中1スケート実習
6	土			
7	日			
8	月	近大推薦二次 進級判定会議(7校時)		
9	火	近大推薦二次		中学義務教育終了式(7校時)
10	水			
11	木			
12	金			
13	土		生徒家庭学習日	
14	日		新入生ガイダンス	
15	月		月例職員会議	
16	火			
17	水			
18	木		保護者会① 追試①	
19	金		保護者会② 追試②	
20	土		終業式(1校時) 大掃除・教室移動・下駄箱移動(2~3校時) 追試判定会議(4校時)	
21	日		春分の日	
22	月		振り替え休日	
23	火		特別授業(26日まで)	中1合宿(25日まで)
24	水	附属合同高2トップ合宿(26日まで 岡山) 中4・5、文理1・2年、学習合宿(26日まで)		
25	木			
26	金		閉寮	
27	土			
28	日			
29	月			
30	火			
31	水			